

第2四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第2四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

富士興産株式会社

(E01076)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
(1) 【株式の総数等】	6
① 【株式の総数】	6
② 【発行済株式】	6
(2) 【新株予約権等の状況】	6
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	6
(4) 【ライツプランの内容】	6
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	6
(6) 【大株主の状況】	7
(7) 【議決権の状況】	8
① 【発行済株式】	8
② 【自己株式等】	8
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
(1) 【四半期連結貸借対照表】	10
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	11
【四半期連結損益計算書】	11
【第2四半期連結累計期間】	11
【四半期連結包括利益計算書】	12
【第2四半期連結累計期間】	12
(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	13
【注記事項】	14
【セグメント情報】	16
2 【その他】	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18
レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月14日
【四半期会計期間】	第88期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）
【会社名】	富士興産株式会社
【英訳名】	FUJI KOSAN COMPANY, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金丸 勇一
【本店の所在の場所】	東京都千代田区神田東松下町13番地
【電話番号】	03(6859)2050（代表）
【事務連絡者氏名】	経理グループリーダー 大橋 亮
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区神田東松下町13番地
【電話番号】	03(6859)2050（代表）
【事務連絡者氏名】	経理グループリーダー 大橋 亮
【縦覧に供する場所】	大阪支店 （大阪市西区土佐堀一丁目5番11号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第87期 第2四半期 連結累計期間	第88期 第2四半期 連結累計期間	第87期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	17,438	21,226	47,306
経常利益 (百万円)	181	87	871
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (百万円)	114	244	606
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	102	320	626
純資産額 (百万円)	8,752	9,473	9,275
総資産額 (百万円)	14,043	15,969	16,895
1株当たり四半期(当期) 純 利益金額 (円)	13.13	27.92	69.43
潜在株式調整後1株当たり四 半期(当期) 純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	62.3	59.3	54.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	666	911	838
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△871	△348	△1,054
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△152	△140	△181
現金及び現金同等物の 四半期末(期末) 残高 (百万円)	4,062	4,444	4,021

回次	第87期 第2四半期 連結会計期間	第88期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.07	4.88

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等（消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。）は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、好調な輸出に加え、国内消費や民間設備投資も緩やかな回復基調を維持し、国際情勢などに不透明感があったものの、全体では景気回復の動きを強めました。

このような経営環境の下で、当社グループは、中期経営計画『「F K 1 7 変革とチャレンジ」～強固な事業基盤の再構築を目指して～』の基本方針と事業別施策に沿って、各事業に取り組んでまいりました。しかしながら、当社グループのコア事業である石油事業では、上昇した製品仕入コストの価格転嫁などに苦戦を強いられ、損益面では厳しい状況が続きました。

子会社が営むホームエネルギー事業とレンタル事業の業績につきましては、ホームエネルギー事業は、設備投資に係る関連経費の増加から、利益は前年同期を若干下回ったものの、計画利益は上回ることができ、レンタル事業は、営業基盤である北海道の需要回復などから、利益は前年同期・計画ともに上回ることができました。また、環境関連事業として取り組んでいるメガソーラー発電事業につきましても、売電額は計画を上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、石油事業における製品販売価格上昇などの影響により、前年同期比37億円（21.7%）増加の212億円となりました。損益面では、売上総利益は、石油事業において上昇した製品仕入コストの価格転嫁の遅れなどから、前年同期比20百万円（1.2%）減少の1,632百万円となりました。また、営業利益は、販売費及び一般管理費の増加もあり、前年同期比94百万円（72.5%）減少の35百万円となり、経常利益も前年同期比93百万円（51.8%）減少の87百万円となりました。法人税等を調整した親会社株主に帰属する四半期純利益は、当社の税効果会計における企業区分が変更したことにより、法人税等調整額を186百万円と大幅に計上できたことから、前年同期比129百万円増加の244百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

「石油事業」

石油業界におきましては、OPEC諸国の減産合意の影響などから、昨年より上昇基調にあった原油価格は、今年に入り、50ドル／バーレル近辺での安定した動きとなり、期中の平均価格では、前年同期比で8ドル／バーレル程度高い価格となりました。国内の石油製品需要につきましては、漸減傾向が続く重油など一部の油種を除き、ほぼ前年同期並みとなりました。

このような厳しい環境の下で当社グループは、計画の数値目標に拘りながら、業界再編を進める石油元売各社が、新たに打ち出した価格政策などへの対応に鋭意取り組みました。しかしながら、上昇した製品仕入コストの価格転嫁などに苦戦を強いられ、損益面では厳しい状況が続きました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、製品販売価格の上昇などの影響により、前年同期比35億円（21.9%）増加の196億円となったものの、営業損益は、122百万円の損失（前年同期は28百万円の利益）となりました。

「ホームエネルギー事業」

北海道道央地域に営業基盤を有するホームエネルギー事業（LPG・灯油など家庭用燃料小売事業）におきましては、暖房用灯油は、節約志向の定着などによる減少傾向はあるものの、当期は、気温低下による増加がこれを上回り、販売数量は増加しました。また、LPGの需要も堅調に推移しました。

このような環境の下で、当社グループは、LPGの積極的な営業活動と新規投資により供給戸数の拡大を図るとともに、採算販売の徹底にも努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、販売数量の増加などの影響により前年同期比51百万円（10.5%）増加の542百万円となりました。また、営業利益は、新規顧客獲得のための設備投資に係る関連経費の増加から、前年同期比14百万円（49.5%）減少の15百万円となりました。

「レンタル事業」

北海道道央地域に営業基盤を有する建設機材レンタル事業におきましては、道内の公共工事の発注額が前年を上回り、民間投資にも持ち直しの気配が見えてまいりました。

このような環境の下で、当社グループは、地元企業の需要取り込みに力を入れるとともに、需要の高い機材の充実を図り、保有機材の有効活用に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、工事件数の増加から、前年同期比150百万円（23.4%）増加の792百万円となり、営業利益は、前年同期比49百万円（163.4%）増加の79百万円となりました。

「環境関連事業」

当社グループが、新規事業として取り組んでいる環境関連事業のうち、メガソーラー発電事業につきましては、前期、新たに鹿児島県と茨城県の発電所を開所し、当第2四半期連結累計期間は、従来の施設（千葉県・群馬県）と合わせ4ヶ所（6メガワット）の発電所がフル稼働となりました。また、グリーン商品であるアドブルーの販売につきましては、販売数量はまだ少ないものの、前年同期比26.2%の増販となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、夏場の悪天候による売電の減少はあったものの、前年同期比62百万円（33.1%）増加の251百万円となり、営業利益は、前年同期比19百万円（47.1%）増加の62百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ925百万円減少の15,969百万円となりました。この主な要因は、受取手形及び売掛金の減少1,605百万円などの減少要因が、現金及び預金の増加422百万円や投資その他の資産の増加140百万円などの増加要因を上回ったことによるものであります。

また、負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,123百万円減少の6,495百万円となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金の減少996百万円などによるものであります。

純資産合計は、剰余金の配当による減少122百万円を含め、前連結会計年度末に比べ197百万円増加の9,473百万円となり、自己資本比率は59.3%となりました。

なお、資産及び負債の減少は、主に季節的変動によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により増加した資金が、投資活動及び財務活動で使用した資金を上回り、第2四半期連結会計期間末の資金残高は前連結会計年度末に比べ422百万円増加して4,444百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により増加した資金は、911百万円（前年同期は666百万円の増加）となりました。これは売上債権の減少額1,605百万円などの資金増加要因と減価償却費240百万円などの非資金項目の合計額が、仕入債務の減少額1,001百万円などの資金減少要因を上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、348百万円（前年同期は871百万円の使用）となりました。これは有形固定資産の取得による支出363百万円などの資金減少要因によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は、140百万円（前年同期は152百万円の使用）となりました。これは配当金の支払額122百万円などの資金減少要因によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当社グループは、研究開発活動を行っておりません。

(6) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(7) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった主要な設備の新設について、当第2四半期連結累計期間に千葉県木更津市の太陽光発電設備の増設工事が完了し、平成29年9月より稼働しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成29年9月30日）	提出日現在発行数（株） （平成29年11月14日）	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,743,907	8,743,907	東京証券取引所 （市場第一部）	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	8,743,907	8,743,907	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （千株）	発行済株式 総数残高 （千株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	—	8,743	—	5,527	—	48

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
J X T Gホールディングス株式会社	東京都千代田区大手町一丁目1-2	1,005	11.50
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	東京都中央区晴海一丁目8-11	939	10.75
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱東京 U F J 銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U. S. A. (東京都千代田区丸の内二丁目7-1)	668	7.65
株式会社三菱東京U F J 銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7-1	339	3.88
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社	東京都港区浜松町二丁目11-3	178	2.04
あいおいニッセイ同和損害保険株式 会社 (常任代理人 日本マスタートラス ト信託銀行株式会社)	東京都渋谷区恵比寿一丁目28-1 (東京都港区浜松町二丁目11-3)	172	1.98
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES SINGAPORE/JASDEC/UOB KAY HIAN PRIVATE LIMITED (常任代理人 香港上海銀行東京支 店)	20 COLLYER QUAY, #01-01 TUNG CENTRE, SINGAPORE 049319 (東京都中央区日本橋三丁目11-1)	169	1.94
三菱U F J 信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラス ト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目4-5 (東京都港区浜松町二丁目11-3)	140	1.61
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱東京 U F J 銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内二丁目7-1)	119	1.37
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND (常任代理人 株式会社三菱東京 U F J 銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U. S. A. (東京都千代田区丸の内二丁目7-1)	105	1.20
計	—	3,838	43.90

- (注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数のうち、投資信託、年金信託及びその他信託に係る株式が、920千株含まれております。また、日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数は、信託業務に係る株式数であります。
2. フィデリティ投信株式会社から、平成26年3月7日付で提出された大量保有報告書(変更報告書)の写しにより、平成26年2月28日(報告義務発生日)現在で、下表のとおり株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末時点における実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
エフエムアール エルエルシー (FMR LLC)	874,000	10.00

なお、当社は当該大量保有報告書(変更報告書)の記載に基づき、主要株主の異動を確認したため、平成26年3月12日付で臨時報告書(主要株主の異動)を提出しております。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 5,200	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 8,727,400	87,274	—
単元未満株式	普通株式 11,307	—	—
発行済株式総数	8,743,907	—	—
総株主の議決権	—	87,274	—

(注) 「完全議決権株式 (その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,700株 (議決権17個) 含まれております。

② 【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合 (%)
(自己保有株式) 富士興産株式会社	東京都千代田区神田東松下町13番地	5,200	—	5,200	0.06
計	—	5,200	—	5,200	0.06

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,021	4,444
受取手形及び売掛金	6,853	※25,248
商品及び製品	372	429
その他	411	368
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	11,653	10,487
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,277	1,277
その他(純額)	3,081	3,188
有形固定資産合計	4,359	4,465
無形固定資産	175	169
投資その他の資産	※1706	※1847
固定資産合計	5,241	5,482
資産合計	16,895	15,969
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,757	3,761
未払法人税等	70	40
引当金	—	4
預り金	1,430	1,431
その他	669	688
流動負債合計	6,929	5,926
固定負債		
引当金	44	51
退職給付に係る負債	448	453
その他	197	63
固定負債合計	690	569
負債合計	7,619	6,495
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,527	5,527
資本剰余金	48	48
利益剰余金	3,462	3,584
自己株式	△5	△5
株主資本合計	9,033	9,155
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	242	318
その他の包括利益累計額合計	242	318
純資産合計	9,275	9,473
負債純資産合計	16,895	15,969

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
売上高	17,438	21,226
売上原価	15,785	19,594
売上総利益	1,652	1,632
販売費及び一般管理費	※21,522	※21,596
営業利益	130	35
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	14	14
固定資産賃貸料	46	46
業務受託料	21	17
軽油引取税交付金	14	14
その他	10	6
営業外収益合計	107	99
営業外費用		
支払利息	11	4
固定資産賃貸費用	19	20
業務受託費用	20	20
その他	4	2
営業外費用合計	56	48
経常利益	181	87
特別利益		
固定資産売却益	35	20
特別利益合計	35	20
特別損失		
環境対策引当金繰入額	—	7
環境対策費	57	—
その他	0	3
特別損失合計	57	10
税金等調整前四半期純利益	159	97
法人税、住民税及び事業税	△0	40
法人税等調整額	45	△186
法人税等合計	44	△146
四半期純利益	114	244
親会社株主に帰属する四半期純利益	114	244

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	114	244
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11	76
その他の包括利益合計	△11	76
四半期包括利益	102	320
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	102	320
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	159	97
減価償却費	216	240
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△1	0
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△2	1
修繕引当金の増減額 (△は減少)	1	2
環境対策引当金の増減額 (△は減少)	△276	7
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1	5
固定資産売却損益 (△は益)	△35	△20
環境対策費	57	—
売上債権の増減額 (△は増加)	970	1,605
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△9	△57
仕入債務の増減額 (△は減少)	△32	△1,001
未払金の増減額 (△は減少)	△81	28
その他	△91	55
小計	878	966
利息及び配当金の受取額	14	14
利息の支払額	△11	△4
法人税等の支払額	△159	△63
環境対策費の支払額	△54	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	666	911
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△901	△363
有形固定資産の売却による収入	39	23
その他	△8	△9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△871	△348
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△0	△0
割賦債務の返済による支出	△29	△17
配当金の支払額	△122	△122
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△152	△140
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△356	422
現金及び現金同等物の期首残高	4,418	4,021
現金及び現金同等物の四半期末残高	※4,062	※4,444

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(財政状態、経営成績又はキャッシュ・フローの状況に関する事項で、企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の判断に影響を与えると認められる重要なもの)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
投資その他の資産	1百万円	3百万円

※ 2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	一百万円	73百万円

3 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため主要取引金融機関と貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
貸出コミットメントの総額	2,000百万円	2,000百万円
借入実行残高	—	—
差引額	2,000	2,000

(四半期連結損益計算書関係)

1. 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

当社グループの主力事業であります石油事業における燃料油販売は、冬季に需要が増加する灯油・A重油が中心であるため業績に季節の変動があり、売上高・営業費用ともに第1及び第2四半期が少なく、第3及び第4四半期が多くなる傾向にあります。

※2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
運賃・諸掛費	395百万円	417百万円
給料手当及び賞与	500	520

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	4,062百万円	4,444百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	4,062	4,444

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	122	14	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	122	14	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	石油事業	ホームエネ ルギー事業	レンタル 事業	環境関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	16,116	490	642	188	17,438	—	17,438
セグメント間の内部 売上高又は振替高	41	0	0	—	42	△42	—
計	16,158	490	642	188	17,480	△42	17,438
セグメント利益	28	29	30	42	130	0	130

(注) 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	石油事業	ホームエネ ルギー事業	レンタル 事業	環境関連 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	19,640	542	792	251	21,226	—	21,226
セグメント間の内部 売上高又は振替高	58	0	1	0	60	△60	—
計	19,699	542	794	251	21,287	△60	21,226
セグメント利益又は損 失 (△)	△122	15	79	62	34	1	35

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来、「石油事業」に含まれていた「環境関連事業」については、事業規模が拡大し、経営における重要性が増したため独立し、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(金融商品関係)

当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

その他有価証券で時価のあるものが、企業集団の事業の運営において重要なものとなっていないため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	13円13銭	27円92銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	114	244
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	114	244
普通株式の期中平均株式数(株)	8,738,754	8,738,691

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月14日

富士興産株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 牧野 隆一 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 伊藤 孝明 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている富士興産株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、富士興産株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。